

年 組 名前:

# 家族で「食」考える機会を

## 大月の保育士 農業体験会や料理教室



親子連れと田起こしをする苫谷彩さん(右)

大月市大月町真木

大月市大月町真木の保育士苫谷彩さん(49)は、子どもがいる家庭を対象に、農作業の体験会や料理教室を開く活動を続けている。活動は「くらしのわ」と名付け、今年で3年目。苫谷さんは「子どもと親たちが自然の環境に触れながらコメなどの栽培を体験し、家族で食事や健康について考えてもらう場所にした」と話している。

〈武田寛明〉

苫谷さんは鹿沼島出身。東 農業の教室に参加。無農家の野 京都市で会社員として働く傍 菜やコメの栽培のほか、伝統的 ら、2011年ごろから北杜市 な食文化をベースに健康な生活 や八王子市などで開かれる自然 を目指すマクロビオティック

を学んだ。

自分の畑で農業を始めよう と、通勤ができる山梨県内に移 住先を探し、21年に真木地区の 民家に移住。無農家の稲作や 野菜作りを始めた。それまでも 知人の家族が田んぼを訪れ、田 植えや収穫を体験していたが、 「自分で畑を持ち、食や健康に ついて実践し、周囲に広めてい きたい」として23年からは1年 を通じた農作業体験を実施して いる。

参加者は交流サイト(SNS) やブログなどで募集。梅干し、 みそ造りなどを体験する料理教 室も地域住民などを対象に行っ てきた。活動の名称「くらしの わ」は、「自然と調和しながら 人と人がつながるといふ意味を 込めた」と(苫谷さん)という。

今年には都内から5組の家族が 定期的に訪れ、コメ作りに取り 組んでいる。5月下旬に水田で 代かきやあぜ塗り体験した国 立市の狩野志保さん(43)は「都 会では危険とされる山での遊び も、遠くから見守ってもらえる 環境になっている」と話す。息 子の想那さん(9)は「あぜ塗り で泥をくっつけるのが面白かつ た」と笑顔を見せた。

苫谷さんは「子どもが楽しみ ながら、家族とともに健康につ いて考えてもらえればいい」と 話している。

(2025年7月25日付 山梨日日新聞 25面)

### 問1

大月市の保育士の苫谷さんは、だれを対象に、なにを行う活動をしていますか。

・だれを対象: ..... ・なにを行う: .....

### 問2

苫谷さんが学んだ「マクロビオティック」は、どのような生活を旨すことですか。

.....

### 問3

活動の名称「くらしのわ」は、どのような意味が込められていますか。

.....